

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254  
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 近畿圏地殻大型地震推定前兆続報  
前兆継続→1月5日以前の可能性否定

現状第4前兆群から示される日は  
1月8日±  
(発生となるか、次前兆極大となるか)

No.1778長期継続特殊前兆の続報、現況報告です。

続報No.004,005 (12/20更新) で報告のとおり、12/29±発生の可能性は考えにくい状況となっておりますが、右図のとおり、No.1778前兆は現在も顕著に継続しており、下の関係(発生時期を仮定した場合の各極大に対する前兆終息時期計算)のとおり、本日現在も明確顕著なNo.1778関連認識前兆が継続し、終息が認められないことから、12月29日±発生の可能性は完全否定できません。

極大: 10/23 11/9 12/4 12/14

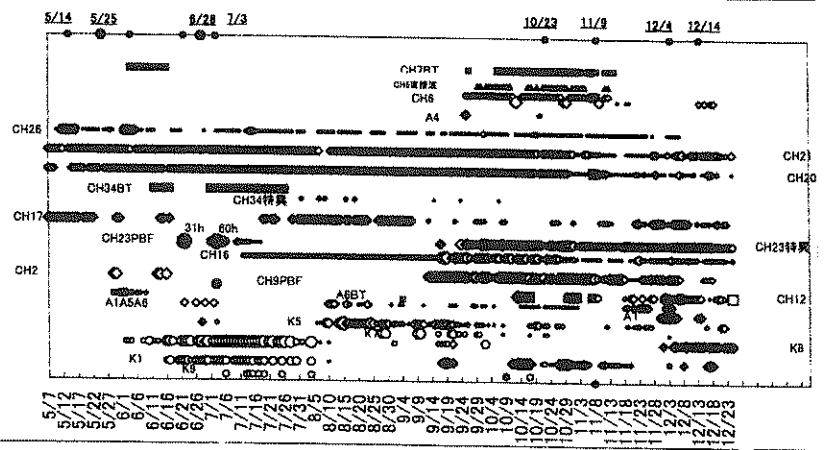
↓ ↓ ↓ ↓

12/29±の場合終息時期:12/12± 12/17± 12/23± 12/25±

1/8 ±の場合終息時期:12/20± 12/24± 12/30± 1/2±

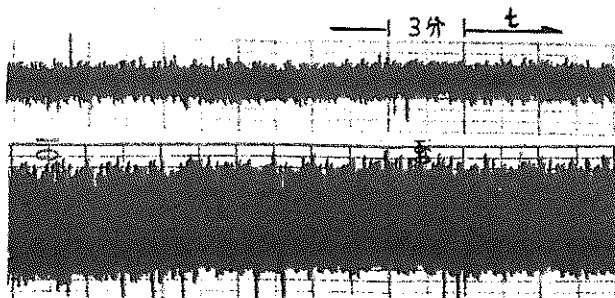
仮に12月29日±発生となるのであれば、12月14日の極大(最終認識)に対する前兆終息が本日となるはずですが、本日も顕著継続のため、12/29 は否定可能。

右上図の前兆出現状況図のとおり、12月中の顕著な前兆に対しK8系状特異、CH23特異、CH12特異等は、最終まで継続出現する可能性が考えられます。現状、現在の前兆群からは1/8±が示される様に見えますが、1/8±が発生時期となるのか、次前兆群に突入し、24→12→6→3 となる様に3個の極大を有する前



兆群が出現する可能性も完全否定は困難です。仮に現状示唆されると認識される1/8±が発生時期である場合は、左上記のとおり、12/30±時期、そして新年1/2±時期に前兆終息が確認できる筈と推定されますので、この変化を年末年始に注意深く観測する必要があります。

CH12通常基線→



本日未明のCH12→

※本日のCH12基線は基線幅増大BTの様に見えますが、通常基線から上向きに顕著な櫛状変動が出現し、BTの様に見える状態です。下スケッチ参照。地殻大型地震前兆の一種です。



前兆終息変化が認められた場合は、続報を更新させて戴きます。但し、終息と確認するためには、前兆が終息し、通常静穏基線維持の数日確認が必要となりますので、静穏化当日での報告は困難です。

上記のとおり、2012年年末~2013年年始時期での発生の可能性は否定できますことをご報告申し上げます。本頁を読まれないで、週刊誌だけの記事で12/29±と認識されている方も多い様で極めて残念です。御存じのない方がお近くにお出ででしたら是非、12/29 ±の可能性は否定されていることを、お伝え戴

れば幸いです。初めて体験する特殊前兆で、しかも4年半となる最長継続前兆であり、発生時期推定が難解なため、皆様にご迷惑をおかけしておりますが、どうかお許し下さい。

現在表題のとおり 1/5以前に発生の可能性は否定できますが現在の前兆群が示す時期が、本当に1/8±で正しいのか否かも含め、今後の前兆変化を観測し、鑑み、再考検討を続けていく予定です。年末年始等関わらず、観測は365日続けております続報させて戴きます。